

(別紙)

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名		長崎県立長崎東中学校
生 徒 数		120名
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況	平均正答率は77%であり、全国・県の正答率を上回っている。知識及び技能と思考力、判断力、表現力等の力についてバランスよく得点できていた。一方で、全国・県の結果と同様に、記述式の正答率が低かった。また、複数の資料から表現の工夫について考える問いの正答率が低かった。改善策として、書くことの授業において、根拠を明確にして書くことや、わかりやすく伝えるために表現を工夫することの指導を手厚く行っていく。また、教科書教材を用いつつ、文章とデータや図を組み合わせた複数テキストを、関連付けながら読解する力の育成を行っていく。
	改善策	
数学	概 況	平均正答率は88%と全国・県の正答率を大きく上回っている。図形において、他の領域に比べると少し正答率が低い傾向が見られた。特に、三角形や平行四辺形の基本的な性質を様々な場面で活用する力が不足している。改善策としては、図形の基本性質を活用した様々な証明を振り返り、証明の共通点や相違点を考えさせていく。そして、問題の条件などが変わっても統合的・発展的に考えることができるようにしていく。
	改善策	
理科	概 況	概況としては全体の平均正答率は74%で、全国・県の正答率を大きく上回った。物理・化学・生物・地学の各分野とも平均的に正答率は高かった。問題(8)2については全国平均よりは高かったが、他の設問と比較して誤答が多かった。与えられたデータをもとに推論していく問題で、生徒にはなじみが薄い出題パターンだったと思われる。普段の学習活動の中でより論理的な思考ができるよう指導していきたい。
	改善策	
質 問 調 査 の 状 況		質問9「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」に対して「当然である」と考える生徒は68.7%で、例年県・全国平均より下回る傾向にある。根気強く指導していく必要がある。 質問11では「人の役に立つ人間になりたい」と考える生徒が多い(約97%)が、学習結果チャートでは、生徒の自己有用感・向社会性の低さが目に付く。まだ自己意識の方が高く、他者への意識が低い生徒が多いようである。

(別紙)

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名		長崎県立佐世保北中学校
生 徒 数		117名
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況 改善策	平均正答率は73%（県平均54%）であった。「知識・技能」の正答率は65.4%（県平均45.2%）、「思考力・判断力・表現力」の正答率は74.7%（県平均55.4%）であった。正答率が低い問題は、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題及び文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題であった。今後は、自分の意見を相手に分かりやすく伝えるための工夫を考えたり、文章の構成や展開について、文章中の表現をもとに読み力を取ったりする力を育成する必要がある。
数学	概 況 改善策	平均正答率は81%（県平均46%）であった。「知識・技能」の正答率は82.6%（県平均51.9%）、「思考力・判断力・表現力」の正答率は77.6%（県平均36.7%）であった。特に6（2）（3）は、正答率が高く、式の意味を理解する力や目的をもって式変形する力は身につけている一方で、9（2）（3）は他の問題に比べて正答率が低く、自らの考えを論述する力を高めていく必要がある。
理科	概 況 改善策	平均正答数は【1】は3.7（全国2.9）、【5・8】は2.5（全国1.9）であった。問題別の正答率も概ね全国よりも高かった。思考・判断・表現の観点による問題への正答率が高く、正答率が低かった問題は既習内容を忘れていた点があげられる。今後さらに発展させるためにも、課題に対する考えを深めた学習内容を検討し、表現を高めていく必要がある。
質 問 調 査 の 状 況		「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「思う、どちらかと言えば思う」と答えた生徒の割合は97.4%（県平均87%）であった。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に、2時間以上と答えた生徒の割合は69.2%（県平均26.8%）であり、ともに県平均を上回っている。学校生活を楽しみ、学びに向かう意欲を持った生徒の育成が、主体的に学ぶ生徒の育成につながるので、「主体的な学ぶ生徒の育成」を大きな柱として、諸活動に取り組ませていきたい。

(別紙)

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名		長崎県立諫早高等学校附属中学校
生 徒 数		122名
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況 改善策	平均正答率は75%と全国(54.3)・県平均(54)を上回ってはいるが、全国・県平均が例年とほぼ変わらぬ中で、常に80%を超えていた本校の過年度の生徒と比較すると反省点の多い結果であると言える。四つの大問それぞれに記述式での解答があり、平均正答率は53.1%であった。記述の条件「根拠を明確に」、「自分の考えが伝わるような表現の工夫」、「(読み手の立場で)文章を整える」に対する適切な解答が作成できていない。今後は、記述条件の正確な読み取りと条件に適切に対応した文章作成の書く力に注力した指導を行う。
数学	概 況 改善策	平均正答率は、83%と全国や県の平均正答率を大きく上回った。また、4領域全てで正答率80%を上回っている。一方で、問題別集計結果を見ると、素数の意味、多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる問題が正答率70%を下回った。学び直しの機会を確保し、十分な意味理解を図ったうえで、それらを活用する場を設定したい。さらに、昨年度、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力に課題が見られたため、引き続き、指導の工夫・改善を図りたい。
理科	概 況 改善策	平均正答率は72%と、全国・県平均正答率を大きく上回っている。特に、実験等の与えられた条件から結果とその理由を考察する問いで高い正答率が見られるため、思考力が身に付いている生徒が多いことが見てとれる。しかし、地学分野における正答率が他の分野よりも低く、知識の定着に課題が見られるため、復習する機会を設ける必要がある。
質 問 調 査 の 状 況		いじめがいけないことだという意識が、全国・県の平均よりも低い【質問(9)】。命の大切さや他者理解について考えを深められるような指導を、学校生活全体をとおして行っていく。 学校に行くのが楽しい、普段の生活の中で幸せな気持ちになると感じている生徒が、全国・県の平均よりも高い【質問(11)(15)】。 昨年度に引き続き、平日の勉強時間が少なく【質問(17)】、土日にまとめて勉強する生徒が多い【質問(18)】。勉強時間の確保はできているが、毎日継続的に勉強へ向かう姿勢を身に付けられるよう、各教科担当や担任が協力して改善を図りたい。